

編集後記

新専門医制度が本年度からスタートしました。始まったからにはいい制度を目指していきたいと考えています。何よりも、この専門医制度で育っていく方々を失望させないよう、教育に対する熱意は高く持ち続けたいと、皆思っています。

医師の教育は、何よりも経験により培われます。この、内科医としての経験は、“疾患”だけではなく、“病い”という側面からの経験も重要です。この“疾患”と“病い”の区別については、ハーバード大学のクラインマン教授が提唱しています。“疾患”とは、医療専門職が、医学モデル、つまり医学的診断基準によって分類し、理解しようとするものと定義されています。これは個々の経験を、いわば「外側」から、「科学＝論理的思考モード」で客観的に捉えるものといえます。一方“病い”とは、当事者である患者や家族によって経験される、個別的で主観的なものとされています。これは個人のいわば「内側」から「物語論的思考モード」によって生み出され、体験されるものと言えます。これに基づきクラインマンは、こう説きます。“疾患の理解はもちろん必要であろう、しかしその個別化した病いの経験に正対しない限り、苦しみ生きにくくなっている人の経験に手が届かない。”

症例報告を書くということは、その患者さんの“疾患”としての側面を言語化することです。しかし、そこに至る疾患に対する深い理解と考察、そしてその言語化は、論文には現れない“病い”としての経験も、あなたの心に、共に深く刻んでくれると思います。それは、澱のように、あなたの内科医としての力となっていきます。“疾患”を学ぶことは重要です。一例の“疾患”の経験が、医学を革新させることもあると思います。しかし、その一方で、内科医にとって、“病い”に関する経験が、医師としての“得”となると感じています。この経験は、本からでは無く、あなたの目の前の方と、時間をかけて対峙するという、非効率な経験を積み重ねることでしか得られません。症例報告は、この経験の醸成を手助けしてくれると思います。

本誌は、母国語で皆さんの医師としての経験を記録できる雑誌です。是非、医師として成長するに当たり、本誌に皆さんの経験を積み重ねていってください。

*クラインマンに関しては、ケアをすることの意味 皆藤章 編・監訳 アーサー クラインマン/江口重幸 著 誠信書房 から引用、改変しました。

(小野寺 理)

〈編集委員〉

編集委員長 園生 雅弘 編集副委員長 高尾 昌樹
 編集委員 荒木 信夫 飯塚 高浩 池田 昭夫 亀井 聡
 鈴木 匡子 坪井 義夫 西野 一三 星野 晴彦
 編集委員(幹事兼任) 小野寺 理 新野 正明 三澤 園子

「臨床神経学」 第58巻 第9号 平成30年9月1日発行
 編集者 東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル 一般社団法人日本神経学会
 発行者 東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル 戸田 達史
 印刷所 〔郵便番号 602-8048〕京都市上京区下立売通小川東入 中西印刷株式会社

発行所 〔郵便番号 113-0034〕東京都文京区湯島二丁目 31 番 21 号 一丸ビル
 日本神経学会

郵便振替口座 東京 00120-0-12550

TEL. 03-3815-1080 FAX. 03-3815-1931

ホームページアドレス：<http://www.neurology-jp.org/>